

編集後記

雑誌『表現文化』も今号で7号となりました。今年はゲスト執筆者である Thomas J. Wallestad 先生の英語論文を含む論文3篇、研究ノート2篇、優秀卒業論文2篇、授業報告2篇、優秀レポート1篇と、今までで一番充実した内容となっているのではないかと自負しています。多様な問題意識を持つ教員・研究者・院生・学生の集合体である「表現文化教室」の今が感じ取れる雑誌を、多くの人に読んでもらいたいと願っています。

編集実務作業に携わり大奮闘した院生たちに心から感謝します。

(三上雅子)

昨年度は発行することができなかつたため、今回は一年越しの「表現文化」発行となりました。例年、編集ソフトを使用した雑誌作成の実務作業は前期博士課程の院生が担当しており、今年も修士1回生3名が担当しました。人数が少ない上、各々が研究調査・留学準備・就職活動を抱えた過密スケジュールだったので作業は難航を極めました。博士課程の先輩や先生方のご協力を得て、何とか形にすることができました。

これほど大変な編集作業を経て発行されている「表現文化」ですが、実際のところあまり読まれていないのが現状ではないかと思われます。そこで、新2回生向けに表現文化コースのイメージを掴んでもらうきっかけとして使用したり、卒業論文に関する授業の中で掲載論文を模範や叩き台として用いたりしながら、本誌をより有効活用していただきたいと考えます。

今回は多彩な内容となっているため、コースに配属されたばかりの新2回生も、優秀レポートや授業報告を通して表現文化コースのイメージをより具体的に掴むことができるのではないのでしょうか。また3回生・4回生は論文や優秀卒業論文を参考に、「研究内容の深め方」や「研究結果の表現方法」といった内容・形式の両面から自らの研究に活用していただければと考えます。

(前期博士課程1年：小縣)